

**児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用**

別添様式2

公表日:2023年9月1日

12名が回答

事業所名:放課後等デイサービスあかり

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	指定基準で定められたスペースを確保している。仕切りはなく、バリアフリー。(トイレの入り口のみ少し段差あり) 活動は、障害特性に応じて、グループ分け(外出組と室内組)し人数に合ったスペースを提供している。	「はい」の評価12人/12人	個室は設けてない為、も障害特性にあったスペースでの活動提供を検討する。
	2 職員の適切な配置	常時、指定基準に基づいた人員を配置している。	「はい」の評価11人/12人 「わからない」の評価1人/12人	児童の障害特性に合わせ、安全に活動できる職員の配置を行う。マンツーマンが必要な児童については、個別支援計画所に記入しお伝えするようになる。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	「ノンフロア」で室内には、当日の出欠や活動内容はわかりやすいよう写真カードを使用した視覚支援でわかりやすい環境を整備している。 はじまりの会終わりの会を設定し、はじまり終わりを明確にして見通しを立てている。	「はい」の評価12人/12人	障害特性に応じて、本人が理解しやすい環境を整えながら、選択できるような情報提供・環境を整備したい。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	掃除マニュアルを作成し、毎日サービス提供後の掃除を徹底している。生活空間は活動内容に合わせて人数を調整し提供している。	「はい」の評価12人/12人	今後も感染症予防に努め、安全に過ごせる生活空間を提供する。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	日々の業務改善においては、支援員が意見を出しやすい様、会議で話し合う機会を設けている。 出した意見は共有し、取り入れながら次の会議で評価している。		引き続き、継続する。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	現時点では第三者による評価は実施されていない。		必要時には参入する。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	入社時の研修の実施。また、必要な内部研修を定期的に実施。今年度、他事業所との交流も交えて、研修を実施予定。		引き続き、研修機会の確保に取り組む。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	半年に1回個別に面談を設け、家庭内の情報交換を行なながら、児童の将来性を考慮し作成に努めている。	「はい」の評価11人/12人 「わからない」の評価1人/12人	今後は、家庭内のはかにも、関わりのある事業所や、学校等からも情報をアセスメントし、より現状にあった課題の抽出に勤める。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	子どもの状態や、発達段階に合わせて、個別療育や集団活動を提供している。		個別のニーズをくみ取り、将来の社会性に向けた集団・個別活動に取り組んでいきたい。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	個別支援計画書に目標や保護者のニーズを取り入れ、具体的な支援内容を記載している。また、利用児童の「支援記録」にも記載し、日々記録することで、環境の変化・本人の成長や変化を把握しやすい様工夫している。		今後も、本人のおかれている状況が把握しやすい記録の仕方を柔軟に工夫していきたい。
適切な支援の提供(続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	個々の個別支援内容は毎日のケース記録に記載し、支援に基づいた内容を記録している。	「はい」の評価10人/12人 「わからない」の評価2人/12人	支援内容をより充実させるため、研修や、他の事業所・学校・家庭と連携していきたい。児童を取り巻く環境や、成長過程に合わせたニーズを汲み取り作成する。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	会議で、月の行事を全体で決め、その後活動担当を支援員に割り振り、具体的な内容を決めている。行事活動は、計画書・報告書を作成し、次回の活動時に活かせるように、記録として残し、共有している。		児童が持つ長所・得意が發揮できるプログラムが立案できるよう、今後も相談しあえる環境にしていきたい。 また、成人期の自立に向けた生活力を高める為の活動を、楽しみながら取り組めるように考案していきたい。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	児童が持つ長所・得意が発揮できるプログラムを立案し提供している。長期休暇や休日は、平日に行えない趣向を凝らした活動(社会体験・地域交流・クッキング等)を提供している。		引き続き保護者には情報提供しながら、イベントや行事については事故のないように事前の準備に努め、立案する。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	毎日、児童の利用状況によりプログラムを変更している。休校日はテーマを決めて担当支援員が立案している。事前に内容を確認し、細かい部分の修正等を行い、提供している。	「はい」の評価12人/12人	毎回取り組む活動が偏らないように提供する。今後も、ご家庭での様子の聞き取りを大切にしながら、本人の状態に合わせた支援を提供したい。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	支援員室のホワイトボードに、翌日の活動・送迎の割り振りを設定し共有化を図っている。		継続して、徹底する。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	当日の朝礼時に、振り返りを行ない日誌に記入し、翌日に全体で確認している。		引き続き、情報の共有に漏れがない様、また休日の職員にも情報が共有できるように工夫する。 (翌日の業務日誌での共有・会議での共有口・頭での引継ぎ等)
	10 日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	利用日にはその日の状況や言動、支援計画に基づいた支援内容を記録し、検証・改善・継続の実施を行なっている。		記録時は、複数の支援員と情報交換を行いながら、取り組む。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	半年に1回に行なっている。モニタリング時期になると、担当者会議を設け全体で共有している。		本人の変化や発達に応じた支援を提供していきたい。
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	相談支援事業所主催のサービス担当者会議には積極的に参加している。また情報交換も行っている		相談支援専門員と連携し、学校・保護者等本人を取り巻く環境に積極的に介入しながら、支援の方向性を共有したい。
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	児童発達支援事業所に支援計画や、利用児の情報、現在の状況等を、書面を通して引き続き、共有した。		基本的には、受け入れの際は、保護者が作成した情報カードが主になっている。今後は保育所・こども園・幼稚園からの引継ぎ・情報共有も行っていきたい
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	自発的な情報共有は行えていない。		今後、対象となる児童の支援が移行される場合はしっかりと引継ぎ・情報共有したい。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	必要に応じて、実施している。		今後も積極的に受講し、横の繋がりを拡げていきたい。
	7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	毎月、いぶき明生支援学校で行われているハートフルミュージックケアに参加し、外部の児童や支援者・先生との交流を図っている。また、地域のお祭りに積極的に参加し交流を図っている。	「はい」の評価5人/12人 「わからない」の評価7/12人	コロナの為、昨年までは交流については控えていたが、今年度からは積極的に参加した。今後は地域の児童館やイベントを通してかかわりを持ちたい。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	ほとんど実施できていない。		コロナの為、積極的には実施できていないが、行事開催や参加も徐々に増やしていく。
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に行なっている。利用開始後も質問等は受け付けている。	「はい」の評価12人/12人	継続して、徹底する。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	面談し、行なっている。合わせて家庭や学校の状況も聞き取りしている。	「はい」の評価12人/12人	継続して、徹底する。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレン特レーニング等の支援の実施	自立支援協議会から保護者向けの研修を案内している。面談時にご家庭での支援について助言・提案等に努めている。	「はい」の評価6人/12人 「どちらともいえない」評価1人/12人 「いいえ」の評価1人/12人 「わからない」の評価6人/12人	必要に応じて実施していきたい。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送迎時や連絡帳にて情報共有を行なっている。課題についても、どの職員ともやり取りできるよう、支援員との関係構築に力を入れている。	「はい」の評価12人/12人	今後も、ニーズの変化に合わせながら日頃から保護者との共通理解に努める。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	連絡帳や電話・送迎時など少しの時間でも聞き取りを行なっている。	「はい」の評価6人/12人 「どちらともいえない」評価61/12人 「いいえ」の評価1人/12人 「わからない」の評価6人/12人	支援員の移り変わりも多い為、それぞれの支援員が保護者と関係を構築できていない現状。まずは関係を築きながら、保護者とコミュニケーションを図っていく。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	実施できていない	「はい」の評価1人/12人 「どちらともいえない」評価1人/12人 「いいえ」の評価5人/12人 「わからない」の評価5人/12人	昨年保護者会は不要との声があり実施していない。 保護者と相談しながら、開催を検討する。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情に関する体制は契約時の重要事項説明書に記載および説明しており、万が一苦情があつた際には担当職員が対応する体制を整えている。	「はい」の評価12人/12人	苦情があつた場合、フローチャートに沿って対応し、職員間で情報共有する。また速やかに謝罪等の適切な対応を行なっていきたい。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	利用日には連絡帳に記入、また利用日以外でも電話やメールにて伝達を行なっている。	「はい」の評価12人/12人	継続する。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月、機関誌・行事予定表を配布している。またこまめにSNSで活動風景をアップしている。	「はい」の評価12人/12人	今後も十分な情報発信に努め、改善点があれば検討していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	SNSなども使用しているため、保護者については契約時に同意書にて確認している。個人情報に関する書類等については、必要最低限の物は鍵つき書庫に保管している。	「はい」の評価15人/16人 「わからない」の評価1人/12人	今後も、契約時に説明を行い、保管や共有の際の取り扱いは細心に注意を払う。保護者の不安がないよう、特に、SNSの取り扱いについては十分に配慮していく。
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	一部実施できていない。(保護者への案内は、警報発令時のマニュアルのみ) 各種マニュアルの整備がすべて行えていないことから、職員へ周知できていないものもある。	「はい」の評価12人/12人	現状に即した各種マニュアルの整備を行う。また、定期的に更新を行い保護者への周知を進めていく。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年に3回災害を想定した訓練を計画しているが、今年度はまだ実施出来ていない。	「はい」の評価8人/12人 「わからない」の評価4人/12人	様々な災害内容応じた訓練を定期的に行ない、保護者とも共有する。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	自立支援協議会主催の虐待防止研修に参加できた。内部での研修は2事業所合同で実施出来ている。虐待についての意識付けの為、事例を通して定期的に研修を行っている。		内部での虐待防止研修の実施。また日頃から、虐待についての意識付けの為、事例を通して定期的に研修を行っていく。日頃から職員同士、お互いが確認しあえるような環境を作り、適切な対応を心がけたい。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明…了解を得た上で児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	実施なし。		今後、契約またはアセスメントの聞き取り時に説明を行い、対応していく。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	アレルギー対象者あり(1名)おやつを家庭から持参してもらい、配慮している。		今後も契約時にアレルギーの聞き取りは継続して実施する。また協力医療機関にも気軽に相談できる関係を作っておく。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内の共有の徹底	毎月1回のフロア会議で、情報共有をしている。また、ヒヤリハット報告書は、事務所内掲示板にて期間を決めて掲示している。		研修やディスカッション会議を継続する。
1	子どもは通所を楽しみにしているか	児童や保護者のニーズに応えながら、季節を味わえる活動や、生活力を身に付けるために必要な支援を、楽しんで取り組んでもらえるよう工夫し提供している。	「はい」の評価7人/12人 「どちらともいえない」評価1人/12人 「わからない」の評価2人/12人	引き続き、保護者・利用児童のニーズに応えながら、楽しんで取り組んでもらえるよう提供していく。児童の発達に合わせて、生活能力を高められる活動を工夫して提供していく。
2	事業所の支援に満足しているか		「はい」の評価11人/12人 「わからない」の評価1人/12人	